5773

中型ブロードキャスタ

取 扱 説 明 書

スパウトタイプ

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、部品供給型式を必ずご連絡下さい。

"必読"機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

スパウトタイプ型式一覧表

製品コ-	ード	K98296	K98297	K98302	K98303	K98307
型	式	MBC453PM	MBC453PE	MBC603PM	MBC603PE	MBC1203PE
製品コ-	ード	K98311	K98312	K98316	K98317	
型	式	MBC453PM-0L	MBC453PE-0L	MBC603PM-0L	MBC603PE-0L	

▲ 安全に作業するために

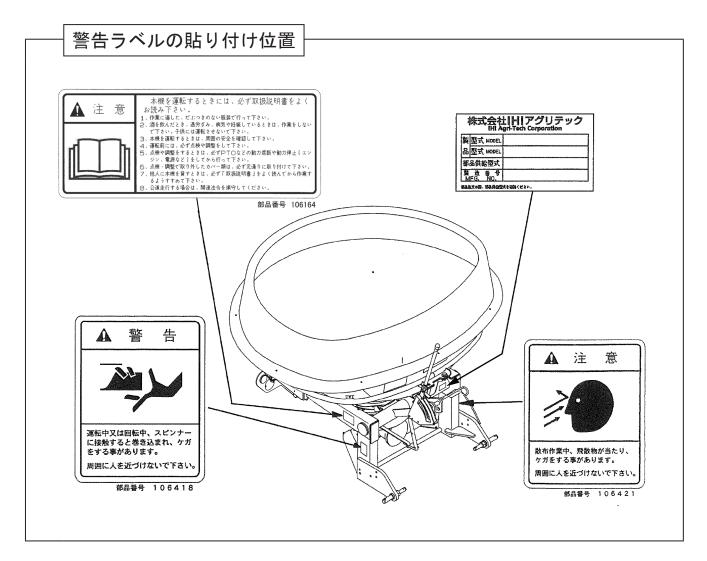
安全に関する警告について

▲印付きの警告マークは安全上、特に重要な項目を示しています。 警告を守り、安全な作業を行ってください。

▲ た 降 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ 禁 告 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性 があるものを示します。

▲ 注 意 その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるもの を示します。



ー ラベルが損傷したときは ー

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。 ラベルが損傷したときは、すみやかに貼り替えてください。 注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡 を含む傷害を生じるおそれがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書を よくお読みになり、十分に理解をしてからご使用く ださい。

作業前に

- 取扱説明書は製品に近接して保存を -

▲ 注意

機械の取り扱いで分からない事があったとき、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こしケガをする事があります。
 取扱説明書は、分からない事があったときにすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を -

▲ 注意

 取扱説明書に記載されている安全上の注意 事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業 すると、思わぬ事故を起こす事があります。 作業を始めるときは、製品に貼付している警 告ラベル、取扱説明書に記載されている安全 上の注意事項、取扱要領を十分に理解して から行ってください。

- こんなときは運転しないでください ―

▲ 警告

◆体調が悪いとき、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。

次の場合は、運転しないでください。

- □過労、病気、薬物の影響、その他の理由 により作業に集中できないとき。
- □酒を飲んだとき。
- □機械操作が未熟な人。
- □妊娠しているとき。

- 服装は作業に適していますか -

▲ 警告

●作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。

次に示す服装で作業してください。

- □袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
- □ ズボンや上着は、だぶつきのないものを着 用する。
- □ヘルメットを必ず着用する。
- □はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどは しない。

- 機械を他人に貸すときは -

▲ 警告

●機械を他人に貸すとき、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。 取扱方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

- 機械の改造禁止 -

▲ 注意

●機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。

アタッチメントは当社指定製品を使用してく ださい。

部品交換するときは、当社が指定するものを 使用してください。

- 始業点検の励行 -

▲ 警告

●機械を使用するときは、取扱説明書に基づき 始業点検を行い、異常箇所は必ず整備を行っ てください。

守らないと、機械の破損を引き起こすだけでなく、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。

- エンジン始動・発進するときは -

▲ 警告

●エンジンを始動するとき、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。

運転席に座り、周囲の安全を確認してから 行ってください。

●エンジンを始動するとき、主変速レバーを 「N」(中立) にして行わないと、変速機が接 続状態になっているため、トラクタが暴走し 思わぬ事故を起こす事があります。

主変速レバーを「N」(中立) にして行って ください。 ● PTOを切らないでエンジンを始動すると、 急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガ をする事があります。

PTOを切ってから始動してください。

- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- ●室内で始動するとき、排気ガスにより中毒に なる事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気してください。

- 作業機を着脱するときは -

▲ 警告

●作業機を着脱するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、 挟まれてケガをする事があります。

トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注意

- ●作業機をトラクタに着脱するとき、傾斜地や凹凸 地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に 動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。

トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

- パワージョイントを使用するときは -

▲ 危険

- ●カバーのないパワージョイントを使用する と、巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しな いでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。 損傷したらすぐに取り替えてください。 使用前には、損傷がないか点検してください。
- ●トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントがが回転し、ケガをする事があります。 PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用する と、カバーが回転し、巻き込まれてケガをす る事があります。

トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

●最伸時の重なりが 100 mmを下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。

最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。

適正な重なり量で使用してください。

パワージョイントを接続したとき、クランプ ピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に 外れ、ケガをする事があります。

溝に納まっているか、接続部を押し引きして 確かめてください。

本機をトラクタにマッチングして公道走行するときは下記の法令を順守してください。

道路交通法、道路車両運送法、道路法。

- 公道走行するときは -

▲ 危険

●公道走行するときは公道走行関連法令を守り、周囲の安全確認を必ず行ってください。 また、トラクタおよび作業機の周囲に人を近づけさせないでください。

守らないと周囲の人を巻き込み、死亡または重傷を負わせることになります。

● 公道走行するときはPTOを入れないでくだ さい。

守らないと周囲の人を巻き込み、死亡または重傷を負わせることになります。

●公道走行するときは運行速度 15 km/h以下で走行してください。

但し、日本農業機械工業会ホームページにて 車両(トラクタ)と作業機の組み合わせの安 定性が確認されている場合は、運行速度35 km/h以下での運行が可能になります。

その場合は制限車両ラベルと運行制限ラベル をはがしてください。

※一般社団法人日本農機機械工業会

http://www.jfmma.or.jp/koudo.html



▲ 警告

- ●公道走行するときは作業機がトラクタにしっかりと装着されていることを確認してください。 守らないと走行中に作業機が外れ、周囲の 人に当たり、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ●公道走行するときは作業機に肥料、工具、部品などを積載した状態で走行しないでください。 守らないと走行中に積載物が落下し、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ●作業機のホッパが固定されているか確認して ください。

守らないと走行中にホッパが外れ、周囲の 人に当たり、死亡または重傷を負う危険性が あります。

◆公道走行する前に灯火器、反射器の点検・ 清掃を行ってください。

灯火器が点灯しない場合には部品を交換して ください。

また、夜間走行時は作業機の尾灯を点灯させてください。

守らないと、後続車に追突されるなど思わ ぬ事故に巻き込まれ、死亡または重傷を負う 危険性があります。

▲ 注意

●作業機の重みによりトラクタの制動距離が延びる可能性があります。

早めにブレーキをかけるようご注意ください。

●作業機に付着していた肥料、土などが道路上に 危険な状態で放置されると法令違反となります。 公道走行する前に清掃を行い、付着物を除 去してください。

- 移動走行するときは ―

▲ 危険

●移動走行するとき、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。 ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲ 警告

●トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。

トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。

● 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落と されたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ 事故を起こす事があります。

急制動・急旋回はしないでください。

坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。

低速走行してください。

● 旋回するとき、作業機が旋回方向とは逆方向 にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさ せたり、対向物・障害物に衝突しケガをする 事があります。

周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間 隔を保って行ってください。

●側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路 肩を走行すると転落事故を起こす事がありま す。

路肩は走行しないでください。

● 高低差が大きい段差を乗り越えようとする と、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガを する事があります。

あゆみ板を使用してください。

●作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガを する事があります。

また、物を載せて走行すると、落下し、周囲 の人へケガを負わせる事があります。

作業機の上には、人や物などはのせないでください。

▲ 注意

●作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。

移動走行するときは、PTOを切ってください。

作 業 中 は

- 作業するときは ―

▲ 警告

●作業機指定のPTO回転数を超えて作業する と、機械の破損により、ケガをする事があり ます。

指定回転数を守ってください。

作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガを する事があります。

また、物を載せて作業すると、落下し、周囲 の人へケガを負わせる事があります。

作業機の上には、人や物などは載せないでください。

●傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をま ねく事があります。

低速で作業してください。

下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、 暴走する原因となります。坂の前で低速に変 速して、ゆっくりとおりてください。

- ◆わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、 周囲の人への危険回避などができず、思わぬ 事故を起こす事があります。
 - 前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、 事故を起こす事があります。
 - しっかりとハンドルを握って運転してください。
- ●ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガスにより中毒になる事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

▲ 注意

- ●散布作業中、飛散物が当たりケガをする事が あります。
 - 周囲に人を近づけないでください。
- 運転中または回転中、スパウト揺動部に手を 入れると叩かれ、ケガをする事があります。 周囲に人を近づけないでください。
- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、 PTOおよびエンジンをとめずに作業する と、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部がとまっている事を確かめて行ってくだ さい。

- トラクタから離れるときは -

▲ 警告

- ●トラクタから離れるとき、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
 - 平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を 防いでください。
- ●トラクタから離れるとき、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。
 - 下限まで降ろしてからトラクタから離れてください。

作業が終わったら

— 機体を清掃するときは —

▲ 注意

●動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の 除去作業などを行うと、機械に巻き込まれて ケガをする事があります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

- 終業点検の励行 -

▲ 危険

パワージョイントを外すとき、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。エンジンをとめて行ってください。

▲ 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業ときにトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。 作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行うとき、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をするとき

▲ 警告

●配線に損傷があると、発煙・発火につながる おそれがあります。 損傷がある場合には作業を中止し、部品交換 を行ってください。

▲ 注意

- ●機械に異常が生じたとき、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。取扱説明書に基づき行ってください。
- ●傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、 トラクタや作業機が不意に動き出して、思わ ぬ事故を起こす事があります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- PTOおよびエンジンをとめずに作業する と、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部が止まっている事を確かめて行ってくだ さい。
- ●作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、 足を入れたりすると、不意に降下し、ケガを する事があります。
 - 下に入るときは、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー 類を取り付けずに作業すると、回転部や可動 部に巻き込まれ、ケガをする事があります。 元通りに取り付けてください。

もくじ

Λ	安全に	作業。	けるため	りに		
	安全に	関する	警告に	ついて]	1
	作	業	前	に]	2
	作	業	中	は]	4
	作業	が終	わっ	たら]	5
	不調処情	置·点検·	· 整備をす	⁻ るとき]	5

1	トラクタへの装着
	1 各部の名称とはたらき 8
	2 適応トラクタの範囲 9
	3 オ プ シ ョ ン 9
	4組 立 部 品 9
	1. 解梱 9
	2. 組立部品の明細 9
	3. 組立 9
	4. スタンドの組立10
	5. 手動レバーの組み付け10
	5トラクタへの装着11
	1. 装着前の準備11
	2. 標準タイプの装着11
	3.0 Lタイプの装着11
	4. 電装の接続12
	6 パワージョイント装着13
	1. 長さの確認方法13
	2. 切断方法13
	3. 安全カバーの脱着方法14
	4. パワージョイントの連結14

2	運転を始める前の点検
	1 運 転 前 の 点 検15
	1. トラクタ各部の点検15
	2. 連結部の点検15
	3. ブロードキャスタの点検15
	2 エンジン始動での点検15
	1.トラクタ油圧系統に異常はないか …15
	3 給 油 箇 所 一 覧 表16

3	作業の仕方
	1 本製品の使用目的17
	2作業のための調整17
	1. PTO回転速度17
	2. 地上高と姿勢の調整17
	3. 最大積載重量17
	4. 散布量の調整18
	3 作 業 要 領19
	1. 肥料の投入19
	2. 種子の散布方法19
	3. 散布方法19

4	作業が終わったら
	1作業後の手入れ20
	2 ホ ッ パ の 反 転20
	1. ホッパの反転20
	2. ホッパの戻し20
	3 トラクタからの切り離し21
	1. 標準タイプの切り離し21
	2.3 Pオートヒッチの切り離し21
	3.4 Pオートヒッチの切り離し21
	4長期格納するとき22

5 点検と整備について 1 点 検 整 備 - 覧 表 ……23

 6
 不調時の対応

 1 不 調 処 置 一 覧 表 ……24

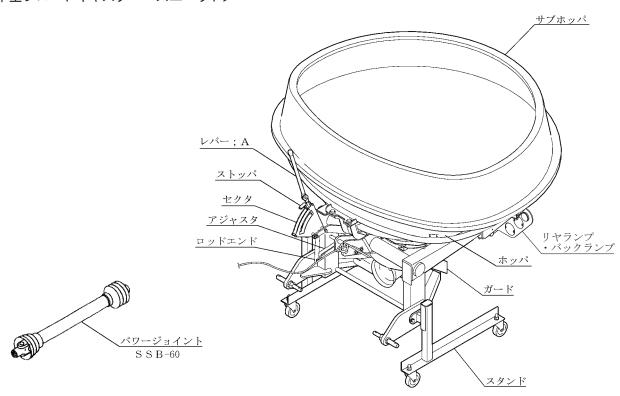
 2 配 線 図 ……25

1 トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき

<中型ブロードキャスタベースユニット>



1. レバー; A

肥料の散布開始および終了をこのレバーの押し 引きにより行います。

前に引くと散布口が開き、後に押すと散布口が閉じます。

2. ストッパ

肥料等の散布時、散布量を調節するためのもので、開度調節が18段階に設定できます。 全閉時、レバーのもどり止めのため、ストッパをセクタの一番後側にセットしてください。

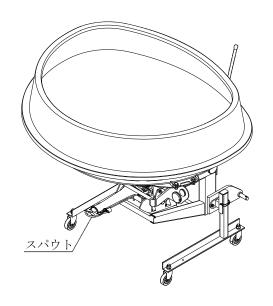
3. ロッドエンド

シャッタの全開または全閉時に落下口が全開または全閉となるように、アジャスタを固定しているナット; M 10 で微調整します。

4. ホッパ

ホッパは後方に倒すことによって反転し、容易 に清掃・点検ができます。

5. **パワージョイント**; **SSB-60** (標準タイプ) トラクタからブロードキャスタのスパウトおよ びホッパ内のスクレーパを駆動します。



6. リアランプ・バックランプ

トラクタと連動し、ランプが点灯します。公道走行するために必要な部品です。

2 適応トラクタの範囲

▲ 注意

●装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。

トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

※ 適応トラクタ馬力の範囲内であっても前輪 荷重が軽くなってしまう場合があります。 適正な荷重配分は前輪荷重 20%以上、後輪 荷重 80%以下です。

ご使用のトラクタで荷重配分条件を満たす ことができるかご確認ください。

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐 久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操 作に著しい悪影響を及ぼす事があります。

この製品の適応トラクタは次のとおりです。

型式	適応トラクタ
MBC453PM,453PE	29.5 ~ 51.5 kW
MBC453PM-0L,453PE-0L	(40 ~ 70 PS)
MBC603PM,603PE	33 ~ 59 kW
MBC603PM-0L,603PE-0L	(45 ~ 80 PS)
MBC1203PE	51.5 ~ 88 kW
IMBC 1203PE	(70 ~ 120 PS)

本製品の適応トラクタより小さなトラクタで使用すると、負荷に対し十分なパワーがでない事があります。

逆に、適応トラクタよりも大きなトラクタでのご使用は、過負荷に対し機体の適正値を越えたパワーが出てしまい、作業機の破損の原因になる事があります。

3 オプション

品 番	:	名	称	用 途
160403000	00	ヽンカ ヽーネ		トラクタ側の外部電装 品取出し口がDIN規格、7Pコネクタで装 備されている場合、灯 火器を取り付けるとき に使用します。(※1)
160269000	າດ ້	ンヤツ		硬い鉱物等が含まれた 摩耗性の高い肥料散布 時に使用します。

※1 本機は日農工標準規格に準じた配線および8 Pコネクタを採用しています。コネクタが合わ ない、もしくはトラクタ側と連動しない場合は 「6-2 配線図」を確認のうえ、販売店にご相談 ください。

4 組立部品

1. 解梱

木枠もしくは金枠に固定している部品をほどいてください。

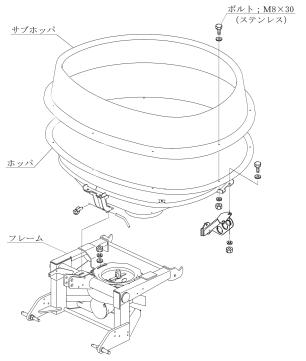
2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品が揃っているか確認してください。

3. 組立

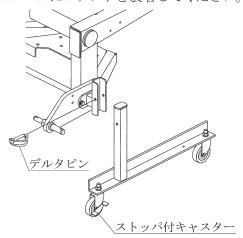
各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱 包明細の符号を参照してください。

お買い上げ型式が 1200 lタイプの場合は、ホッパに サブホッパをボルト、ナイロンナット、ワッシャで 固定します。

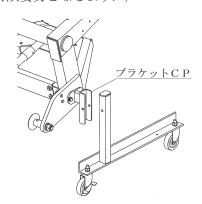


4. スタンドの組立

(1) フレームにスタンドを装着してください。



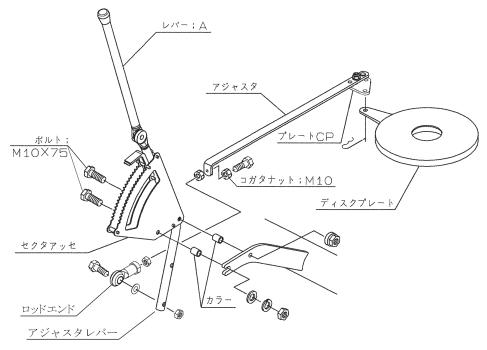
日農工標準オートヒッチ 0 Lタイプ使用時は ブラケット CPを下記のように取り付けて、フレームにスタンドを装着してください。(機体が前傾姿勢となるように)



5. 手動レバーの組み付け

くブロードキャスタ

MBC453PM、453PM-0L、MBC603PM、603PM-0L>



- (1) セクタアッセをフレームにボルト・ナット・カ ラーで固定してください。
- (2) アジャスタ・プレートCPをディスクプレート の穴に取付けロッドエンドをアジャスタレバー に取り付けてください。アジャスタとプレート CPを下図の位置でアタマツキピンで固定し てください。
- (3) レバー; Aとアジャスタレバーをボルト・ナットで取り付けてください。取付け部で角度調整ができ、トラクタとのマッチング位置より取り付け位置が変わりますのでトラクタへマッチング後、調整してください。
- (4) レバー; Aを握り前後に引き押しして落下口の 穴が全開および全閉になっていることを確認 してください。全開および全閉になっていない 場合はアジャスタを固定しているコガタナット; M 10 で調整してください。(より開きたい ときは伸ばし方向、より閉じたいときは縮み方 向に調整してください。)
- (5) レバー; Aは根元で角度調整ができます。操作のしやすい位置および、リフト時キャビン、背中等に当らない位置を確認し、付属のボルトで固定してください。

5 トラクタへの装着

▲ 警告

●作業機を装着するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると挟まれてケガをする事があります。

トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注意

●作業機をトラクタに装着するとき、傾斜地や 凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタ が不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事が あります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

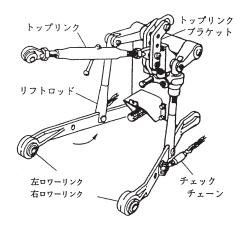
●装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。

トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

1. 装着前の準備

本作業機の装着方法は、標準3点リンク式です。 作業機の下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取り付け穴位置をロワーリンクの前側の穴 に移してください。

特殊3点リンク式のロータリーを使用している場合には、トップリンクの連結部を外し、標準3点リンク用の長いトップリンクを使用してください。



2. 標準タイプの装着

トラクタ3点リンクへブロードキャスタの3点を連結します。

- (1) トラクタのエンジンを始動して、ロワーリンク 先端部がブロードキャスタの左右のロワーリン クピンの位置が合うまで後進して、トラクタを とめてください。
 - エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) 左側のロワーリンクを連結し、抜け止めにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差してください。

次に、右側のロワーリンクも同じ順序で行なってください。

カテゴリーIのトラクタは内側、カテゴリーⅡ のトラクタは外側に連結してください。

- (3) トップリンクを連結し、トップリンクピン; I・ IIで固定し抜け止めにベータピンを差してく ださい。
- (4) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、 トラクタ右側のアジャストスクリュウで調整し てください。
- (5) PIC軸芯がトラクタ中心におおよそ一致する よう、チェックチェーンでセットし、ブロード キャスタの横振れをなくしてください。
- (6) スタンドを外してください。
- (7) 肥料落下口が地上より 60 ~ 70 cmの高さになるようトラクタの油圧レバーを操作し作業機を持ち上げてください。このとき横方向から見て、ブロードキャスタが垂直になるようにトップリンクの長さを調整してください。
- (8) ディスクプレート (シャッタ) 開閉用のレバー; Aは根元で角度調節ができます。操作のし易い位置およびリフト時キャビン、背中等に当らない位置を確認し、付属のボルトで固定してください。

- 取扱い上の注意 ―

●ロワーリンクがスイッチ操作で勢いよく最上部 まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあり ます。手動で干渉の無いことを確認し、十分 余裕をとって上がり規制を行ってください。

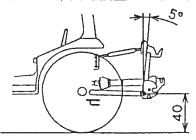
3.0 Lタイプの装着

▲ 注意

●トラクタのエンジンをかけたまま、または駐車ブレーキをかけずにオートヒッチフレームをトラクタに装着すると、第三者の不注意により不意にトラクタが動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- (1)本作業機のオートヒッチは日農工標準オート ヒッチ I・Ⅱ兼用区分 Cを採用しています。
- (2) ブロードキャスタ本体にスタンドをセットして ください。(「1-4-4 スタンドの組立」参照)
- (3) 部品表を参考にして、ガイド、PICシャフト、 カラーをブロードキャスタ本体に組み付けてく ださい。
- (4) お手持ちのオートヒッチフレームをトラクタに 装着し、トップリンクピンおよびロワーリンク ピンに抜け止めのリンチピンを差してください.
- (5) ブロードキャスタのトラクタへの装着をスムー ズに行うため、チェックチェーンは若干ゆるめ に張ってください。
- (6) ロワーリンクの地上高が 40 cm位で、オートヒッチフレームの姿勢が後傾 5° 位になるようにトップリンクの長さを調整してください。



- (7) パワージョイントの組み付け
 - ・お手持ちのオートヒッチフレームが3Pオートヒッチの場合、オートヒッチフレームにブロードキャスタを装着した後、お手持ちのパワージョイントを組み付けます。組み付けは「1-6パワージョイントの装着」を参照してください。
 - ジョイントカバーが回転しないよう、カバー のチェーンを回転しない所に連結してください。
- (8) オートヒッチフレーム上部ガイド (フック部) がトップリンク部をすくい上げることができる 位置までトラクタをブロードキャスタ中心に向けて、ゆっくりバックさせます。

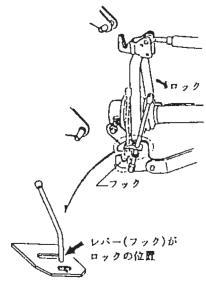
次に油圧を上げて、オートヒッチにブロード キャスタを装着させます。

- 取扱い上の注意 ----

- スタンドキャスタのストッパが解除されていることを確認してください。(ストッパを効かせた状態でマッチングするとストッパの効きが弱くなるおそれがあります)
- ロワーリンクがスイッチ操作で勢いよく最上部 まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあり ます。手動で干渉の無いことを確認し、十分 余裕をとって上がり規制を行ってください。

(9) ブロードキャスタ装着後、オートヒッチのレバーがロックの位置にあり、フックが掛かっていることを確認してください。

お手持ちのオートヒッチフレームが4Pオート ヒッチの場合はさらにパワージョイントが接続 されていることを確認してください。



- (10) PIC軸芯がトラクタ中心におおよそ一致する ようにチェックチェーンでセットしてブロード キャスタの横振れをなくしてください。
- (11) スタンドを外してください。
- (12) 肥料落下口が地上より 60 ~ 70 cmの高さになるようトラクタの油圧レバーを操作し作業機を持ち上げてください。このとき横方向から見て、ブロードキャスタが垂直になるようにトップリンクの長さを調整してください。

4. 電装の接続

- 取扱い上の注意 -

- ●トラクタに電装品の結線をするとき、エンジ ンキーをOFFにしないで行うとショートす る事があります。
 - エンジンキーをOFFにして行ってください。
- ●作業機側のコードは、作業機の動きに順応できる余裕を持たせてください。

また、他に引っ掛からないようにたるみを取って固定してください。

トラクタの灯火信号取出コネクタと本機の灯火器コネクタを接続してください。

本機は日農工標準規格に準じた配線および8Pコネクタを採用しています。

(高馬力トラクタや海外製トラクタの場合、トラクタ側外部電装品取出し口にDIN規格7Pコネクタを採用していることがあります。

オプション品のヘンカンハーネス(160403)を使用 すれば接続可能ですが、バック信号が出ていない 可能性があります。) トラクタ側の動作と上手く連動しない場合は「6-2 配線図」を確認のうえ、販売店にご相談ください。 また、トラクタによっては電装品を接続すると、リ レーの容量が不足し、点灯しないことがあります。 トラクタのリレーの容量不足で電装品が点灯しない 場合には、トラクタ販売店にご相談ください。

6 パワージョイントの装着

▲ 危険

- ●カバーのないパワージョイントを使用する と、巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しな いでください。
- ●カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。 損傷したらすぐに、取り替えてください。 使用前には、損傷がないか点検してください。
- ●トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。 PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用する と、カバーが回転し、巻き込まれてケガをす る事があります。

トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

● 最伸時の重なりが 100mm を下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。

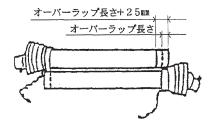
最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。

適正な重なり量で使用してください。

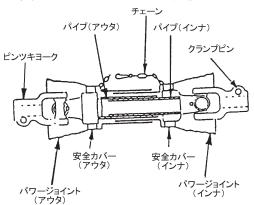
1. 長さの確認方法(標準タイプ)

- (1) パワージョイント (アウタ) から、パワージョ イント (インナ) を引き抜いてください。
- (2) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸 が最も接近する位置で、昇降を停止してくだ さい。
- (3) ピン付きョークのクランプピンを押してPTO 軸と連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

(4) 安全カバー同士を重ね合わせたとき、安全カバー(アウタ)と安全カバー(インナ)がオーバーラップする位置に目印を付け、さらにオーバーラップした長さに25mmを加えた位置に印を付け、この印からカバー端部までの長さを切断方法の手順に従って切断してください。

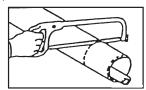


- (5) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸 が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (6) 安全カバー同士を重ね合わせたとき、パイプの 重なり量が 100mm 以下の場合は、販売店に連絡 し、長いパワージョイントと交換してください。

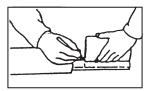


2. 切断方法 (標準タイプ)

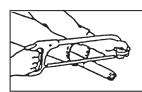
(1) 安全カバーのアウタ・ インナ両方を長い分 だけ切ります。



(2) 切り取った同じ長さ をパイプの先端から 計ります。



(3) パイプのアウタとイ ンナ両方を金ノコま たはカッターで切断 します。



切断するときは、パイプの中にウエスを詰め、

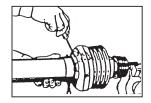
パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

(4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてから パイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、 アウタとインナを組み合わせます。

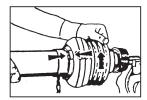
3. 安全カバーの脱着方法(標準タイプ)

(1)安全カバーの分解手順

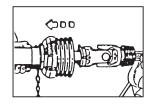
① 固定ネジを取り外してください。



② 安全カバーを取り 外し位置へ回して ください。



③ 安全カバーを引き 抜いてください。

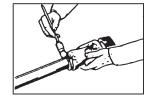


④ スライドリングを 取り出してください。

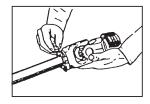


(2) 安全カバーの組立手順

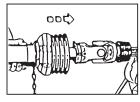
① ヨークのスライド リング溝とパイプ (インナ) にグリー スを塗ってくださ い。



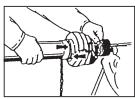
② スライドリングの つばをパイプ側に 向け、切り口を開 いて溝にはめてく ださい。



③ その上に安全カ バーをはめてくだ さい。



④ カバーをしっかり止まるまで回してください。



⑤ 固定ネジを締め付けてださい。

4. パワージョイントの連結

(1)作業機への連結

① 標準タイプの場合

ピン付ョークのクランプピンを押して、PIC軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

② 0 Lタイプの場合

お手持ちのオートヒッチが4Pオートヒッチの場合、トラクタに装着したオートヒッチフレームで作業機を装着すると自動的に連結されます。

3 Pオートヒッチの場合は、お手持ちのパワージョイントをそのままお使いください。

(2)トラクタへの連結

ピン付ョークのクランプピンを押して、PTO 軸に連結し、クランプピンがもとに位置に出る まで押し込んでください。

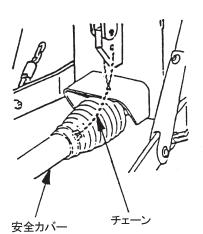
▲ 注意

 パワージョイントを接続したら、トラクタP TO側およびPIC側のクランプピンがそれ ぞれ軸の溝に納まっている事を確認してから 使用してください。

それぞれの溝にきちんと納まっていないと、 使用中にパワージョイントが外れ、重大な人 身事故になる事があります。

(3) 安全カバーチェーンの固定

安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。チェーンは3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

2. 連結部の点検

▲ 注意

- ●点検をするとき、傾斜地や凹凸地または軟弱 地などで行うと、トラクタや作業機が不意に 動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●点検をするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ●点検をするとき、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。

作業機を接地して行ってください。

(1) 3点リンクの連結部点検

- ロワーリンク・トップリンクのリンチピン・ベータピンは確実に挿入されているか。
- ② チェックチェーン張られているか。
- ③ 不具合が見つかったときは、「1-5 トラクタ への装着」の説明に基づき不具合を解消し てください。

(2) パワージョイントの点検

① ピン付きョークの抜け止めのクランプピン が軸の溝に納まっているか。

穴付ョークにピン;8が差し込まれて、ピン;8の抜け止めが穴付ョーク外周の溝に確実にはめ込まれているか。

- ② ジョイントカバーのチェーンの取り付けに 余分なたるみはないか。また、適度な余裕 があるか。
- ③ ジョイントカバーに損傷はないか。
- ④ 不具合が見つかったときは、「1-6-4 パワージョイントの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

(3) 電装コネクタの点検

▲ 警告

- ■電気配線に断線や被覆の破れがある場合、漏電やショートによる火災事故の原因となります。
 - トラクタの電装コネクタと確実に接続されているか。
 - ② 電装コードに余分なたるみはないか、また、 適度な余裕があるか。
 - ③ 電装コードに被覆の破れや、挟み込みによる断線がないか確認してください。
 - ④ 灯火器がトラクタのブレーキ、尾灯、後退灯、ウィンカーと連動して点灯するか。

3. ブロードキャスタの点検

「5-1 点検整備一覧表」に基づき始業点検を行ってください。

2 エンジン始動での点検

▲ 警告

- エンジンを始動するとき、周囲に人がいると、 思いがけない原因でトラクタや作業機が動き 出し、事故を起こす事があります。 周囲に人がいない事を確かめてから行ってく ださい
- ●エンジンを始動するとき、PTOを切らないで始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。 PTOを切ってから始動してください。

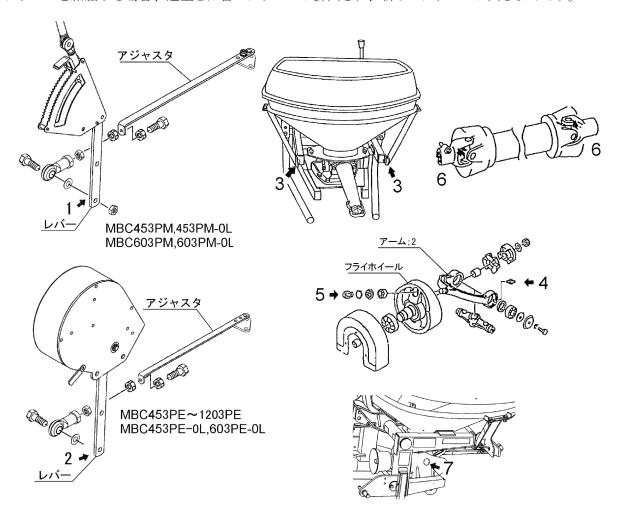
1. トラクタ油圧系統に異常はないか

トラクタ油圧を操作し、3点リンクを上昇し、作業機を持上げた状態で、降下がなければ異常ありません。

トラクタ油圧系統などに異常があるときは、トラクタ販売店にご相談ください。

3 給油箇所一覧表

- 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給 油 場 所	箇 所	潤滑油の種類	給油時間	給油量	備考	
1	ロッドエンド可動部	1	オイル	使用ごと	適量	注油	
2	ロッドエンド可動部	1	"	"	<i>II II II</i>		
3	ホッパ反転アーム回転部;L・R	各 1	各1 " "			"	
4	アーム;2両側のベアリング部	2	※ 集中給油グリース4種;2号	"	"	給脂	
5	フライホイール、アーム ; 2 連結部	1	"	"	"	"	
6	パワージョイント	2	"	//	"	"	
7	ハウジング	1	//	//	"	"	

[※] IDEMITSU「ダフニー エポネックスSR No.2」または相当品をお使いください。

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的

本製品は粒状肥料(高度化成など)、砂状肥料(ようりんなど)、種子の散布に使用します。 他の用途には使用しないでください。

2 作業のための調整

▲ 注意

- ■調整をするとき、傾斜地や凹凸地または軟弱 地などで行うと、トラクタや作業機が不意に 動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●調整をするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ■調整をするとき、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。作業機を接地して行ってください。

1. PTO回転速度

作業時における、常用PTO回転速度は、

450 ~ 500rpm です。

▲ 警告

● 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。

指定回転速度を守ってください。

- 取扱い上の注意 ―

動布の際、シャッタを閉じたままPTOを回 さないでください。

2. 地上高と姿勢の調整

粒状肥料、砂状肥料の散布はスパウトまでの高さが60~70cmになるようにトラクタ油圧でセットしてください。

3. 最大積載重量

型式	最大積載量
MBC453PM,453PM-0L	500 les
MBC453PE,453PE-0L	500 kg
MBC603PM,603PM-0L	
MBC603PE,603PE-0L	1200 kg
MBC1203PE	

※積載容量は肥料の性状により変わります。

- 取扱い上の注意 ―

●指定された積載重量以上の積載はしないでく ださい。

作業機破損の原因になることがあります。

● 積載物はほぼ平坦になるように積載してくだ さい。

4. 散布量の調整

<MBC453PM、453PM-0L

MBC603PM, 603PM-0L>

散布量の調整は、手動開閉 18 段階に選べます。 散布量の表はおおよその目安ですので正確な 散布が必要な場合は時間当たりの落下量を実測 し、開度調整を行ってください。

開度別散布量

スパウト(kg / 10 a)

肥	745	散布幅	車速				開		度			
ᄩ	料	(m)	(km / h)	手動1	2	3	4	5	6	7	8	9
粒	状	10	6		_	_	_	9	14	19	24	31
(高度	化成)	10	10	_	_	_	_	5	8	11	15	18
砂	状	<i>E E</i>	6	_	_	15	27	40	57	76	97	121
(よう	りん)	5.5	10	_	_	9	16	24	34	46	58	73

肥	गरन	散布幅	車速									
ᆘᄃ	料	(m)	(km / h)	手動 10	11	12	13	14	15	16	17	18
粒	状	10	6	38	48	59	71	84	97	109	119	123
(高度化	比成)	10	10	23	29	35	43	50	58	65	71	74
砂	状	E	6	150	184	221	258	298	_	_	_	_
(ようり	りん)	5.5	10	90	110	132	155	179	_	_	_	_

---- 10 a 当たりの散布量計算 ----

一 スパウト 一

- 粒状(高度化成) 10 a 当たりの散布量 [kg / 10 a] = 6 × 1 分間当たりの落下量 [kg] / 車速 [km / h]
- 砂状(ようりん) 10 a 当たりの散布量 [kg / 10 a] = 10.9 × 1 分間当たりの落下量[kg]/車速[km/h]

3 作業要領

▲ 警告

- 運転中または回転中、スパウト揺動部に手を 入れると叩かれ、ケガをする事があります。 周囲に人を近づけないでください。
- ●作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。

指定回転速度を守ってください。

ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

▲ 注意

- ●散布作業中飛散物が当たりケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、 PTOおよびエンジンをとめずに作業する と、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部がとまっていることを確かめて行ってく ださい。

- 取扱い上の注意 -

● 生石灰は水に触れると激しく反応し発熱します。火傷や火災の原因になる事があります。 危険ですので水滴等の水濡れに十分注意してください。

1. 肥料の投入

移動中の振動による固まりを防ぐため、肥料の 投入はほ場に着いてから行ってください。 作業前にホッパ容量と散布量を考慮し、あらか じめほ場各所に肥料を置いておくと能率の良い 作業ができます。

2. 種子の散布方法

牧草種子および細粒種子の散播の際には、種子 と同比重のもの(例、オガクズ)を増量剤とし て混合してください。

増量剤を使用せず微量散布しますと散布の均一性が悪くなります。

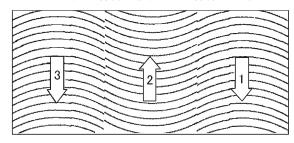
3. 散布方法

は場における散布方法について代表例を3通り あげますので、用途に応じて参考にしてください。

(1)1回散布

有効散布巾をトラクタの走行間隔で散布します。 粒状肥料散布の場合、散布区画が分かりにくい のでトラクタ車輪後を目安に散布を行います。

※ 1回散布作業(高能率の作業方法)

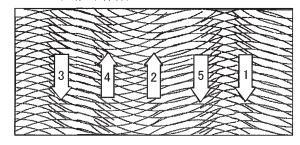


(2)2回散布

1回目の散布は上記方法で行い、2回目の作業は1回目散布の中間にトラクタ中心がくるように散布します。

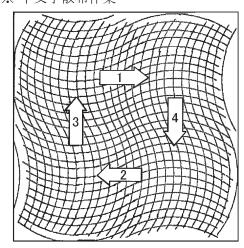
10 a 当たりの散布量を1/2にセットして2回散布しますので、1回散布よりも均一性は向上されますが、能率は低下します。

※ 2回散布作業



(3) 十文字散布

有効散布巾で縦、横、十文字に散布する方法で、 上記の2回散布よりも均一性が向上されます。 ※ 十文字散布作業



4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ

▲ 注意

- ●作業後の手入れをするとき、傾斜地や凹凸地 または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機 が不意に動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●作業後の手入れをするとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。
 - エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて 行ってください。
- 調整や付着物の除去などをするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出しケガをする事があります。
 - エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整 を行うとき、思いがけない原因で作業機が降 下してケガをする事があります。
 - トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。
- 1. ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか、 また、破損部品がないか確認してください。 異常があれば、ボルトの増し締め、部品の補修 または交換をしてください。
- 2. 作業終了時は、水洗いし、ホッパ内の肥料をきれいに流してください。特にホッパプレートとディスクプレート間は、水洗い後、ホッパ内の水を切るためディスクプレートはあけてください。
- 3. 樹脂部品の劣化を防止するため、作業しない間は屋内等、日のあたらない場所で保管してください。

2 ホッパの反転

ホッパは後方に倒す事によって反転し、容易に点検、 清掃ができます。

1. ホッパの反転

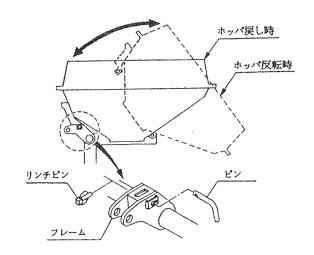
- (1) リンチピンを抜きピンを抜いてください。
- (2) ホッパを後方にゆっくり倒してください。

2. ホッパの戻し

- (1) ホッパを前方にゆっくり戻してください。
- (2) フレームにピンを挿し、抜け止めにリンチピンを入れてください。

- 取扱い上の注意

●強風時は、ホッパを反転させないでください。作業機が転倒し、破損することがあります。



3 トラクタからの切り離し

▲ 危険

パワージョイントを外すとき、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。 エンジンをとめて行ってください。

▲ 注意

- ●作業機をトラクタに着脱するとき、傾斜地や 凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが 不意に動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。 作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- ●作業機をトラクタに着脱するとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。

エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

1. 標準タイプの切り離し

① スタンドを装着してください。

- 取扱い上の注意 ---

- スタンドキャスタのストッパが解除されていることを確認してください。(ストッパを効かせた状態でトラクタから切り離しするとストッパの効きが弱くなるおそれがあります)
- ②トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接地するまでブロードキャスタを下げてください。
- ③トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ④ PTO軸からパワージョイントを外してください。
- ⑤トップリンク、右ロワーリンク・左ロワーリンクの順でトラクタから切り離してください。

2.3Pオートヒッチの切り離し

① スタンドを装着してください。

- 取扱い上の注意 -

- スタンドキャスタのストッパが解除されていることを確認してください。(ストッパを効かせた状態でトラクタから切り離しするとストッパの効きが弱くなるおそれがあります)
- ②トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接地しない程度に作業機を下げてください。
- ③トラクタPTO軸からパワージョイントを外してください。
- ④オートヒッチフレームのレバーを解除の位置に してください。
- ⑤トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接するまでブロードキャスタを静かに下げ、オートヒッチフレーム下部のフック部がロワーリンクピンから外れていくのを確認しながらトラクタをゆっくり前進させてください。
- ⑥トラクタの油圧レバーを操作し、オートヒッチ フレームを下まで下げてトラクタのエンジンを とめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ⑦オートヒッチフレームからトップリンクを外し、 オートヒッチフレームの上部が接地するまで後 方に倒してください。
- ⑧右側のロワーリンクを外した後、左側のロワーリンクを外してください。

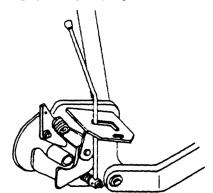
3.4Pオートヒッチの切り離し

①スタンドを装着してください。

- 取扱い上の注意 ―

- ■スタンドキャスタのストッパが解除されていることを確認してください。(ストッパを効かせた状態でトラクタから切り離しするとストッパの効きが弱くなるおそれがあります)
- ②オートヒッチフレームのレバーを解除の位置にしてください。
- ③トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接するまでブロードキャスタを下げ、オートヒッチフレーム下部のフック部がロワーリンクピンから外れていくのを確認しながらトラクタをゆっくり前進させてください。
- ④トラクタの油圧レバーを操作し、オートヒッチ フレームを下までさげてトラクタのエンジンを とめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ⑤トラクタPTO軸からパワージョイントを外してください。

- ⑥オートヒッチフレームからトップリンクを外し、 オートヒッチフレームの上部が接地するまで後 方に倒してください。
- ⑦右側のロワーリンクを外した後、左側のロワー リンクを外してください。



4 長期格納するとき

- 1. 機械各部の清掃をしてください。
- 2. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
- 3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。

また、回転、回転支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PT O軸、PIC軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。

- 4. 塗装損傷部は補修塗装、または、油を塗布し、 さびの発生を防いでください。 また、電装コネクタの端子には市販の防錆材を スプレーして下向きに保管してください。
- 5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
- 6. ホッパは反転したまま保管しないでください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。 機械の整備不良による事故などを未然に防ぐため に、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、 安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- ●点検整備をするとき、傾斜地や凹凸地または 軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不 意に動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●点検整備をするとき、エンジンをとめずに、 あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、 思いがけない原因で作業機が駆動し、あるい は、トラクタや作業機が動き出し、ケガをす る事があります。
 - エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて 行ってください。

- ●作業をするとき、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。
- 点検整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。 ● 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備
 - 下してケガをする事があります。 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして 行ってください。

を行うとき、思いがけない原因で作業機が降

1 点検整備一覧表

時間	チェック項目	処 置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使 用 ご と (始業終業点検)	 ①機械の清掃 ホッパ内の肥料 ディスクプレートとホッパプレートの間の肥料 ②部品脱落・破損部 ③各部のボルト・ナットのゆるみ ④各部の油脂類 	補充、交換 増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂
シーズン終了後	①各部の破損、摩耗 ②各部の清掃 ③各部の給油、給脂 ④回動支点等の摩耗 ⑤塗装損傷部 ⑥PIC軸等無塗装部	早めの部品交換 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂 早めの部品交換 塗装または油塗布 グリースまたは油塗布

6 不調時の対応

▲ 注意

●不調対応処置・点検・整備をするとき、傾斜 地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラ クタや作業機が不意に動き出し、事故を起こ す事があります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

● 不調対応処置・点検・整備をするとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。

エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

作業をするとき、カバー類を外して作業する と、ケガをする事があります。

不調対応処置・点検・整備の後は、カバー類 を元通りに取り付けてください。

● 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備 を行うとき、思いがけない原因で作業機が降 下してケガをする事があります。

トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

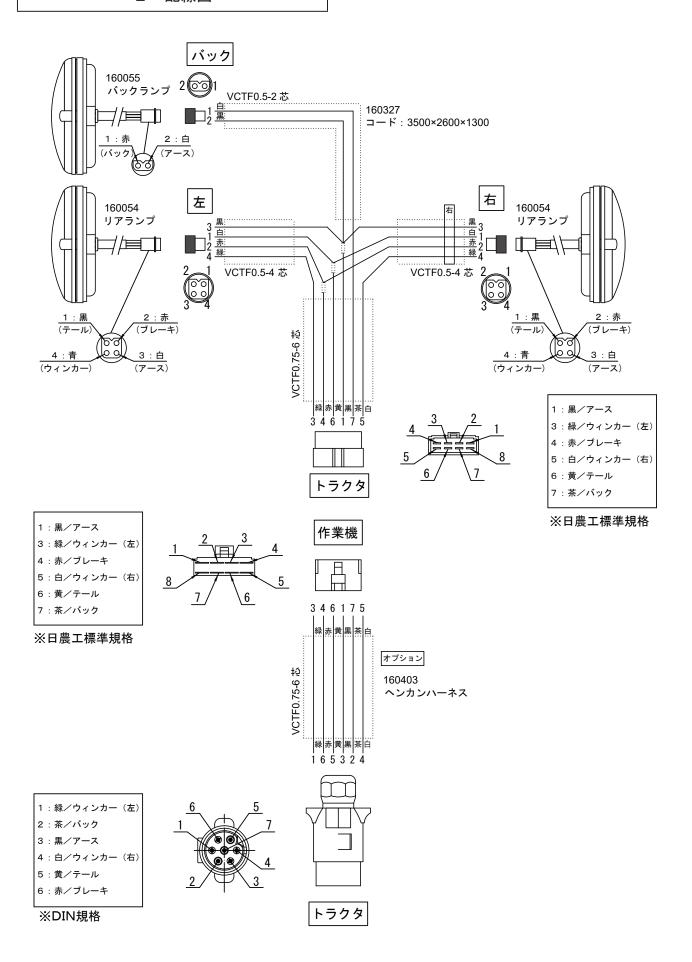
1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
シャッタ(ディスク	● ディスクプレートとホッパプレートの間	●「4-1 作業後の手入れ」に基づき清掃。
プレート)が動かな	に肥料が詰まる。	
い。	● 回動支点部がさび付いている。	● さびを取り除き、グリースを塗布する。
肥料がでない。	● 使用している肥料の水分が高い。	● ホッパ内部を清掃し、乾燥した肥料を 使用する。
	● コードの接続不良または断線。	● 補修または部品交換。
ランプが動作しない、	● ランプの破損。	
もしくはトラクタ側	● バッテリ劣化による電圧の低下。	● バッテリ電圧(12V)の確認、充電、
の動作と連動しない。		交換。
	● 本機およびトラックの配線間違い。	●配線の確認。

原因や処置の仕方がわからない場合は下記の事項とともに購入先にご相談ください。

- 1. 製品名
- 2. 部品供給型式(型式)
- 3. 製造番号
- 4. 故障内容(できるだけ詳しく)

2 配線図



千歳 本社	066-8555	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西 2 2 条北 1 丁目 1 2 番地 4 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 0153-72-2624 FAX 0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL 0198-46-1311 FAX 0198-45-5999
仙台営業所	984-0032	宮城県仙台市若林区荒井5丁目21-1 TEL 022-353-6039 FAX 022-353-6040
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
東海営業所	485-0081	愛知県小牧市横内字立野678-1 TEL 0568-75-3561 FAX 0568-75-3563
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市北区下中野 7 0 4 - 1 0 3 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	861-8030	熊本県熊本市東区小山町 1 6 3 9 - 1 TEL 096-389-6650 FAX 096-389-6710
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233